

伊賀市 事務事業事前評価シート

新規・ソフト事業

コード	名 称	
事業名	2019	一般廃棄物減量等推進事業
基本施策	24	ごみを減らす生活を送る

担当部課名	生活環境部清掃事業課
作成者氏名	福田 伸次
連絡先	20-1050

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	一般家庭から排出される可燃ごみの指定ごみ袋制度を導入する。	一般家庭から排出される可燃ごみの減量、受益者負担の原則による公平化と物の消費や廃棄を抑制する意識の高揚などにより、リサイクルを促進する。
本年度事業内容	一般家庭から排出される可燃ごみを対象として、指定ごみ袋の有料化を実施するため、市議会や自治会連合会に対し、説明。その後各自治会への説明会を経て、実施する。	
開始年度	平成 18 年度	終了年度 平成 年度
根拠法令・要綱等	伊賀市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	

投入資源

		H18	H19	H20
①投入人員	正規職員 (人)	1	1	1
	人件費合計(A)	7,200	7,200	7,200
②支出内訳(千円)	事業費(B)	39,881	46,800	46,800
	消耗品費	34,420	34,300	34,300
	手数料	2,667	8,000	8,000
	委託料	2,000	4,500	4,500
	その他	794		
合計(A+B)		47,081	54,000	54,000
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担			
その他特財	24,187	54,000	54,000	
一般財源	22,894	0	0	
上記①～③に関する特記事項				

活動指標

活動指標	単位	目標値	
		平成 18 年度	年度
自治会への説明会の開催	回	300	

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H19目標値
可燃ごみの排出量の減量	平成17年度可燃ごみ排出量に対して、2%の減量を指標とする。	トン	25,061

評価	必要性	4	家庭から排出される可燃ごみの抑制
	有効性	4	ごみの減量意識の高揚、ごみ処理経費の受益者負担の公平化
	効率性	3	ごみの減量によるごみ処理経費の負担減

総合評価

A